

体型差とバーシック・スカート・パンツとのかがわり
 共立女大家政 〇坪田 考恵 間壁治子 百田裕子

目的 下半身における体型差とパンツの関係を検討し、体型別の適合度の高いマスター・パンツを設計するこゝとを目的に、身体計測値、補正済バーシック・スカート・パンツを用いて体型分類を行い、その有効性と試着テストにより検討した。

方法 被験者は成人女子317名、年齢は20~23才である。資料は、1)、身体計測値及び試着補正済のバーシック・スカート・パンツよりの計測値。2)、視覚的判定のためのシルエツク写真。3)、1)と2)の結果よりマスター・パンツを複製し、試着テストを行った。被験者は上記のうち82名である。1)の解析方法は主成分分析を用いて行い、ローター図及び基準とほり項目で値とした。身体計測値では2種、試着補正済のバーシック・スカート・パンツでは3種の主成分分析を行い、更に1)と2)の結果をいままゝ体型別マスター・パンツを設定し、パターンングを行った。

結果 1)、身体計測値及び補正済バーシック・スカート・パンツの主成分分析結果より、①大きさの因子 (size factor)、②太り具合 (shape factor)、③姿勢の因子、④腰部の形態に関する因子の4成分が共通して表出した。2)、1)の結果より、シルエツク写真を5体型に分類した。3)、1)と2)の結果より、マスター・パンツを複製し、出現率1%以上のとこ3)の被験者を対象に試着テストを行った。標準姿勢・標準体型の適合が63.13%、体型別スカートの適合が62.3%であり、全体に対する不適合は21.7%であった。不適合の21.7%はシルエットごとに配布されたサンプルが標準と特定体型1種とのスカートであるため適合しない被験者がほいたと思われる。